

民児協 さかえ



発行 栄町民生児童委員協議会

〒270-1592 栄町安食台1丁目2番
栄町役場 福祉・子ども課内

第 13 号
令和3年9月1日

令和3年度栄町民生児童委員協議会 総会



令和3年度総会会場の様子

今年度の実施事業と活動内容が決まる

コロナ禍で危ぶまれていた総会が、5月18日に開催され、令和2年度事業報告及び決算報告、令和3年度事業計画及び予算、役員の選任について審議し、承認されました。

総会後には研修、視察研修、広報の各委員会で、事業計画にそった今年度の活動内容の検討も行われ、令和3年度の活動がスタートしました。

広報部 篠田伸洋（北辺田地区）記

研修（地区別意見交換会）



活発に意見交換をする各委員

安心して活動に取り組めるように

令和元年12月の一斉改選に伴い、18名の新たな民生・児童委員を迎え、各担当地域で活動を開始しています。個々での活動が主になるため、特に新規に民生・児童委員になられた方々は地域での活動の仕方や人との接し方、様々な組織や役場との連絡、取り組みの程度など、不安に思うことが多いとの意見が寄せられました。

民生児童委員協議会としては、このような方々に不安感や負担感が無くなるよう、研修の一環として、2回「地区別意見交換会」を実施し、話し合いの中から

令和3年度の研修予定

広報部 篠田伸洋（北辺田地区）記

- 6月・活動記録の記載要領
- 7月・介護保険制度
- 9月・高齢者に対する虐待行為
- 10月・対象者別見守り活動実施要領
- ・栄町における各種サークル活動
- 12月・栄町民生児童委員協議会の活動強化方策に関する検討
- 1月・民生児童委員協議会の役割
- ・民生・児童委員の身分及び具体的職務
- 2月・視察研修
- 3月・「ふれあい相談」の対応・対処要領
- ・栄町における空き家対策

知っていますか 民生・児童委員、主任児童委員のこと

地域の身近な相談相手として

栄町では民生児童委員協議会が組織され、37名の民生・児童委員と2名の主任児童委員及び事務局（福祉・子ども課）で構成されています。

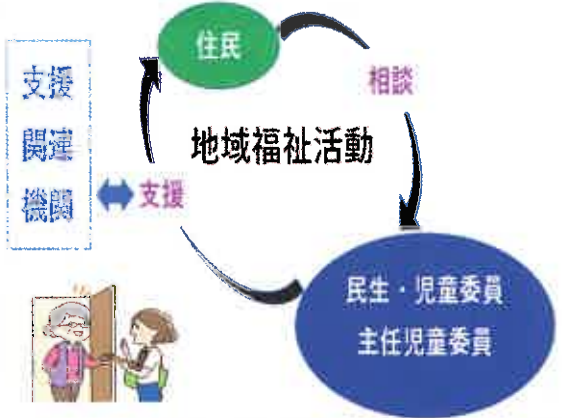
民生委員は、厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める活動を行い、「児童委員」を兼ねています。児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行います。

民生・児童委員は担当地域を持ち、主任児童委員は地域担当の児童委員と連携し、栄町全体を担当し活動しています。

共に役割は、暮らしの中での悩みや問題が生じた方に、同じ地域の住民という立場で相談にのり、解決する機関へとつなぐパイプ役です。

暮らしの中で生じる様々な問題を家族や当事者で解決できればよいのですが、あまり抱え込んでしまうと状況が悪化してしまうことがあります。そんな時は、ぜひ民生・児童委員や主任児童委員にご相談下さい。

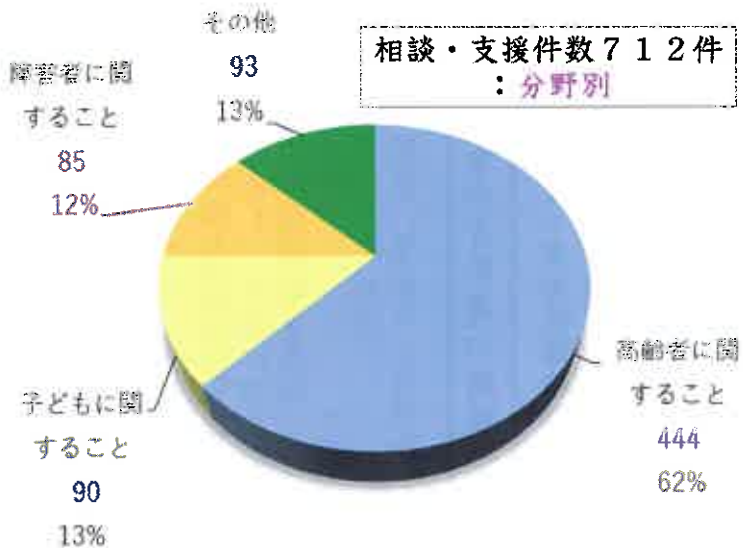
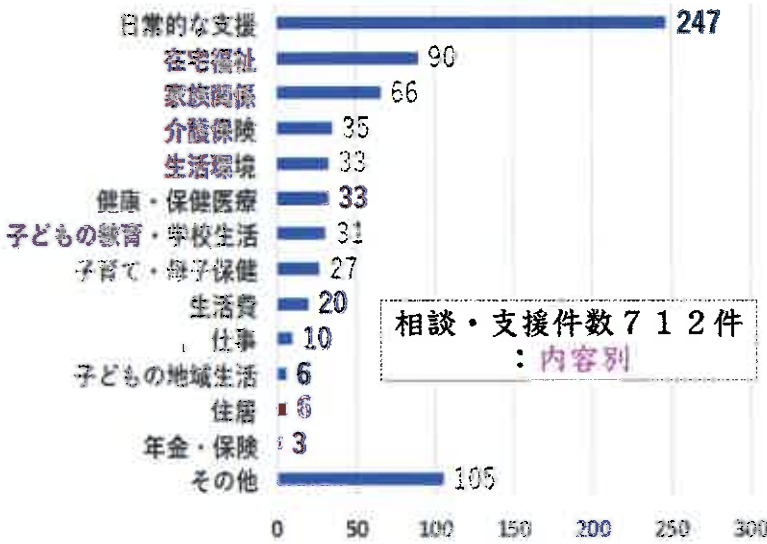
広報部 中原貞男
(安食台地区) 記



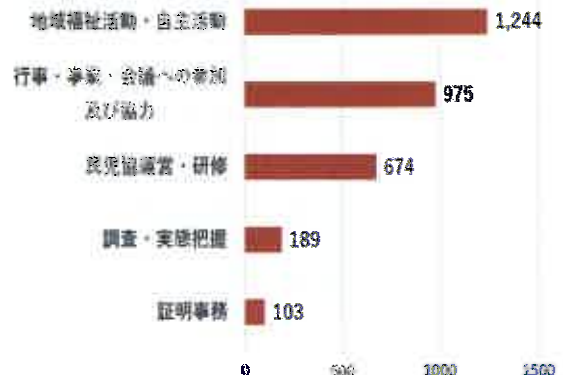
2019年度 民生・児童委員、主任児童委員 活動実績

1年間の活動実績の報告です。急速な人口構造や世帯構造の変化、地域社会の人間関係の変化などを背景に、さまざまな生活課題に直面し、新たな相談や支援が増加しています。昨年からはコロナ禍で、活動が大幅に制限されていますが、各委員は感染対策に充分注意しながら地域福祉のために取り組んでいます。

広報部 中原貞男（安食台地区）記



その他活動件数



社会福祉協議会 (社協) 新局長 にインタビュー



プロフィール
大崎 敦
・1964年生
佐原市出身
・1991年
栄町役場入職
◆総務課
◆税務課
◆出納室
◆社会福祉協議会

*社協に初めていらした時は、どんな印象でしたか、また町民の皆様にとって、どんな場所だと思われませんか

今まで、人の出入りの少ない部署でしたので、ボランティアの方々を含め、いつも誰かがいる活気のある場所だと思えました。町民の皆様と一緒に事業をしていく所なので、どなたでも気軽に立ち寄ってもらえる場所でありたい。ボランティアの方々が動きやすい配慮をする場所でありたい。それには臨機応変に対応する頭の切り換えが必要だと感じています。

*ボランティア活動に初めて参加されたのはいつ頃ですか、またこれから始めたいボランティア活動はありますか

高校生の時、タバコの吸い殻拾いが最初だったと思います。社協に来て、皆様の活動に触発され興味が出てきたところ。災害時の手伝いボランティア等をしてみたいと考えています。

*沢山あるボランティア団体を一つにまとめている、ボランティア・NPO連絡協議会の活動に望むことは

町の核になって頂きたい。中心になって頂き、人材育成も担ってほしいと願っています。

*友愛訪問も含め、民生・児童委員の活動はいかがでしょう

社協の事業は、皆様の協力がなければ成り立たない事が多々あります。友愛訪問時の声を伝えて下さる事で、状況が見えて助かっています。委員の方々と意見交換をしながら、これからも協力よろしくお願致します。

*民生・児童委員に、もう少し協力して欲しいと思うところは

既に多くの事業に協力頂き、現時点ではありません。

*コロナ終息後も含め、これからの社協の活動計画を教えてください

コロナ前の体制に戻したいと考えています。新しい事業計画もありますが、今までの事業を継続するにしても、現在の人員で出来る事も含め、先ずは事業の見直し検討が必要だと思っています。

民生・児童委員、主任児童委員 が協力している社協の事業

- ・友愛訪問
- ・ふれあい相談
- ・給食サービス
- ・紙オムツ支給
- ・すくすく赤ちゃん等

一言
インタビューを終えて

「社協に駆け込んで来る人は、もうここしか無いと勇気を出して来る人がほとんどです。その人の思いに寄り添い、来て良かったと笑顔になつてもらえる、そんな場所であり続けて欲しいと思っています。」と話す中、大きく頷き、「その通りです。町民の皆様への頼りになる社協でありたいと思っています。」大崎新局長の力強い、嬉しいお言葉でした。

広報部

高野秀代・岡田千代子
(竜角寺台地区) 記

ボランティア・NPO連絡協議会 新会長 紹介



プロフィール
横堀 修
・1948年生
・1985年
栄町移住
東日本大震災をきつ
かき始め
アを始める

高齢者が生き生きと過ごすには、地域に何ができるのか。繋がりを絶やさない活動をするために、見守りやお宅訪問、通いの場の再開、コロナ禍でデイ・サービスに行かなくなった人へのフォローなど、今の時代に寄り添った活動を展開することが大切だと考えています。また、民間企業や行政の行き届かない社会の隙間に着目し、地域住民の困りごとの支援をしていくことが重要です。それには地域の皆さんのサポートやボランティアの可能性を広げていくことが必要になってきます。

ボランティア・NPO連絡協議会の役目として、それぞれの立場で連携を取りながら、個々のボランティアが活動しやすくなるようにコーディネート的な役割をしていきたいと思っています。

新会長にお会いし一言

ボランティア活動に感動して始めたこと、多くの講習や訓練で土台を作ったこと等、ボランティアに向き合う姿勢と強さ、そして誠実さを感じることができました。

広報部 高野秀代・岡田千代子 (竜角寺台地区) 記

新型コロナウイルスワクチン集団接種訓練への協力

円滑な接種体制の構築に向けて

5月12日、新型コロナウイルスワクチン集団接種訓練が、「ふれあいプラザさかえ」にて実施されました。

集団接種にあたり、安全かつ効率的に行うため、訓練により課題や改善点などを洗い出し、円滑な接種体制の構築を目的にしたものです。行政からの依頼を受け、13名の民生・児童委員が訓練に協力しました。

私達民生・児童委員は、予診票と本人確認書類（運転免許証・健康保険証等）を持参し、接種対象者となり参加しました。

栄町では、5月23日から集団接種が始まりますが、訓練での課題が改善され、円滑な接種体制が構築されるものと思います。また、6月1日からは個別接種が4つの医療機関で始まる予定です。

広報部 秋山優子（安食地区）
5月20日記



集団接種訓練会場の様子



模擬接種の様子

☆さかえ情報メールに登録しましょう

気象状況や災害・消防情報などをいち早くお知らせする「さかえ情報メール」に登録しましょう。

メールを受信するには、事前の利用者登録（無料）が必要です。

①携帯電話やパソコンから次のアドレスにメール内容を入力しないで送信します。 t-sakae@sg-m.jp

②メールを送信すると登録に関するメールが返信されますので、そのメールに従い操作してください。

③登録が完了すると完了メールが配信され登録が完了します。

※携帯電話で迷惑メール対策をされている方は、ドメイン名「@sg-m.jp」

または「sakae@sg-m.jp」からのメールを受け取れるように設定してください。

☆防災行政無線テレホンサービス紹介

災害発生時の情報伝達手段として、「ホームページ」・「さかえ情報メール」に加え、「防災行政無線テレホンサービス」が開始されています。放送を聞き逃した方、聞きとれなかった方が利用することで、町からの緊急情報を確実に確認することができます。

ご利用は無料 放送後にはすぐ確認 携帯電話からも

0120-030-307



掲
示
板

編集後記

コロナ禍の中、いろいろな面で制約が起きています。広報部におきましても、取材のしにくさ、発行の困難さを感じています。そのような中、第13号をお届けすることができました。今後も皆様のご協力を頂きながら、日頃の活動や広報誌の発行に努力していききたいと思います。

広報部 近藤康夫（安食地区）記